

令和7年度漁場環境調査結果について

「未来につなぐ美しい海計画」に基づく令和7年度の漁場環境調査結果について、日出島・臼木・白浜漁場の三地点における硝酸態窒素(栄養塩)・水温・比重・透明度・水質及び底質の調査結果についてご報告致します。

令和7年度の調査結果と昨年度を比較しますと硝酸態窒素(栄養塩)…4月～7月高めに推移、8月～11月高めに推移、12月～翌年3月は低めに推移する時期がありましたが、全体的には高めに推移しております。水温0m層…4月～7月昨年並に推移、8月～11月昨年並に推移、12月～翌年3月は1月より低めに推移。水温10m層…4月～7月低めに推移、8月～11月昨年並に推移、12月～翌年3月は低めに推移しております。換算比重0m層…4月～7月低く推移、8月～11月低めに推移、12月～翌年3月も低めに推移しており、4月～6月頃までは低比重となる時期がありましたが、その後は安定しております。換算比重10m層…4月～7月低めに推移、8月～11月低めに推移、12月～翌年3月も低めに推移しておりますが、安定しております。また、水質・底質調査においては貧酸素の状況も見られず、多毛類等の生物も確認されており、漁場環境の悪化は見られておりません。

栄養塩とは、海水中に溶けている肥料分のことで、窒素、リン、ケイ素が三大要素と呼ばれており、栄養塩の中でも特に窒素系の栄養塩(硝酸態窒素)は、タンパク質を形成する重要な元素であることから、この変動が若布、昆布の作柄に大きな影響を与えている事が知られております。

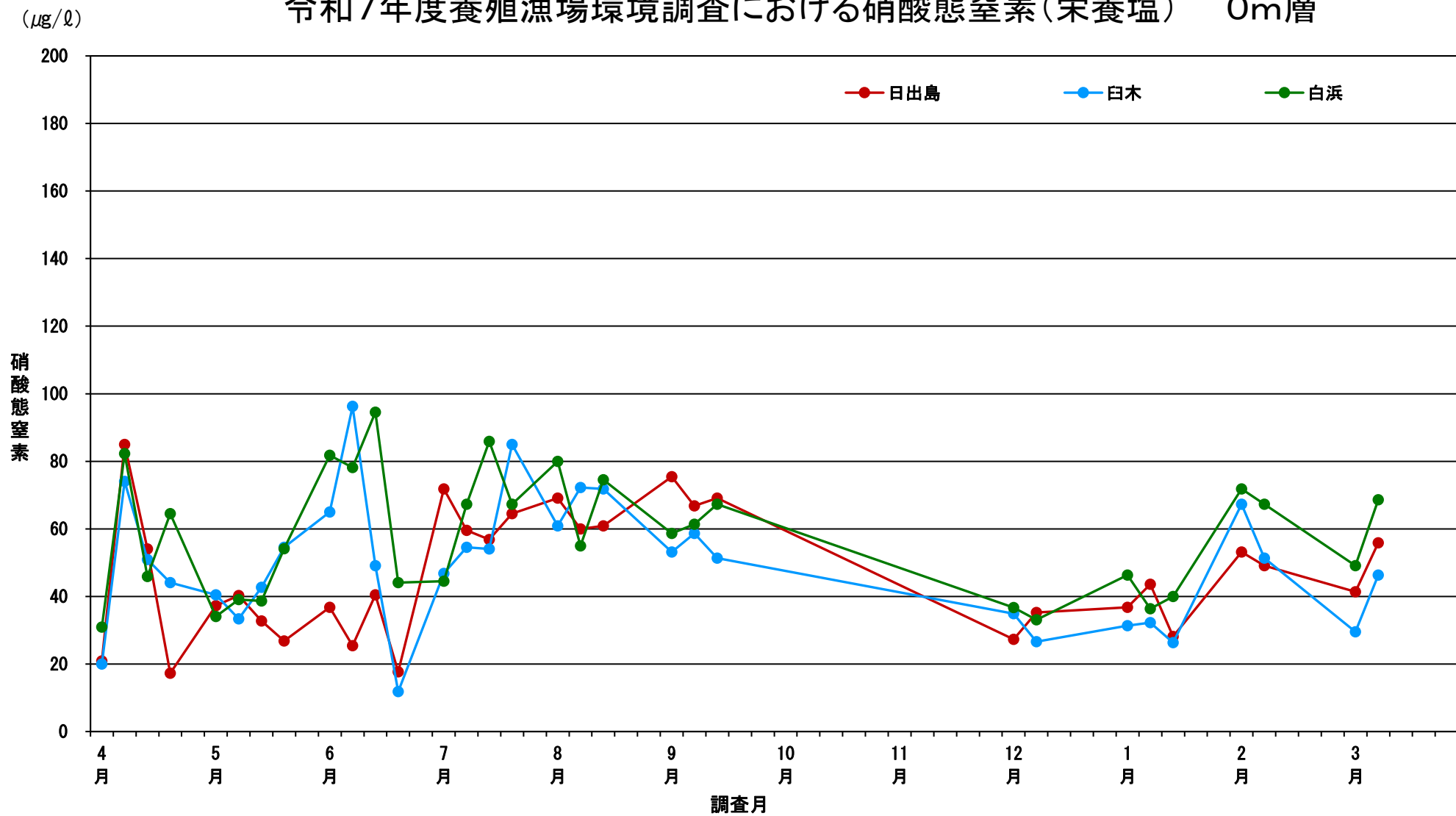
《若布・昆布養殖管理用の栄養塩濃度について》

・栄養塩 $\text{NO}_3\text{-N}$ (硝酸態窒素)単位: $\mu\text{g}/\text{L}$ という記号で表し、海水1L中の $\text{NO}_3\text{-N}$ 含有量を表す。(1 $\mu\text{g}/\text{L}$ = 0.000001g/L)

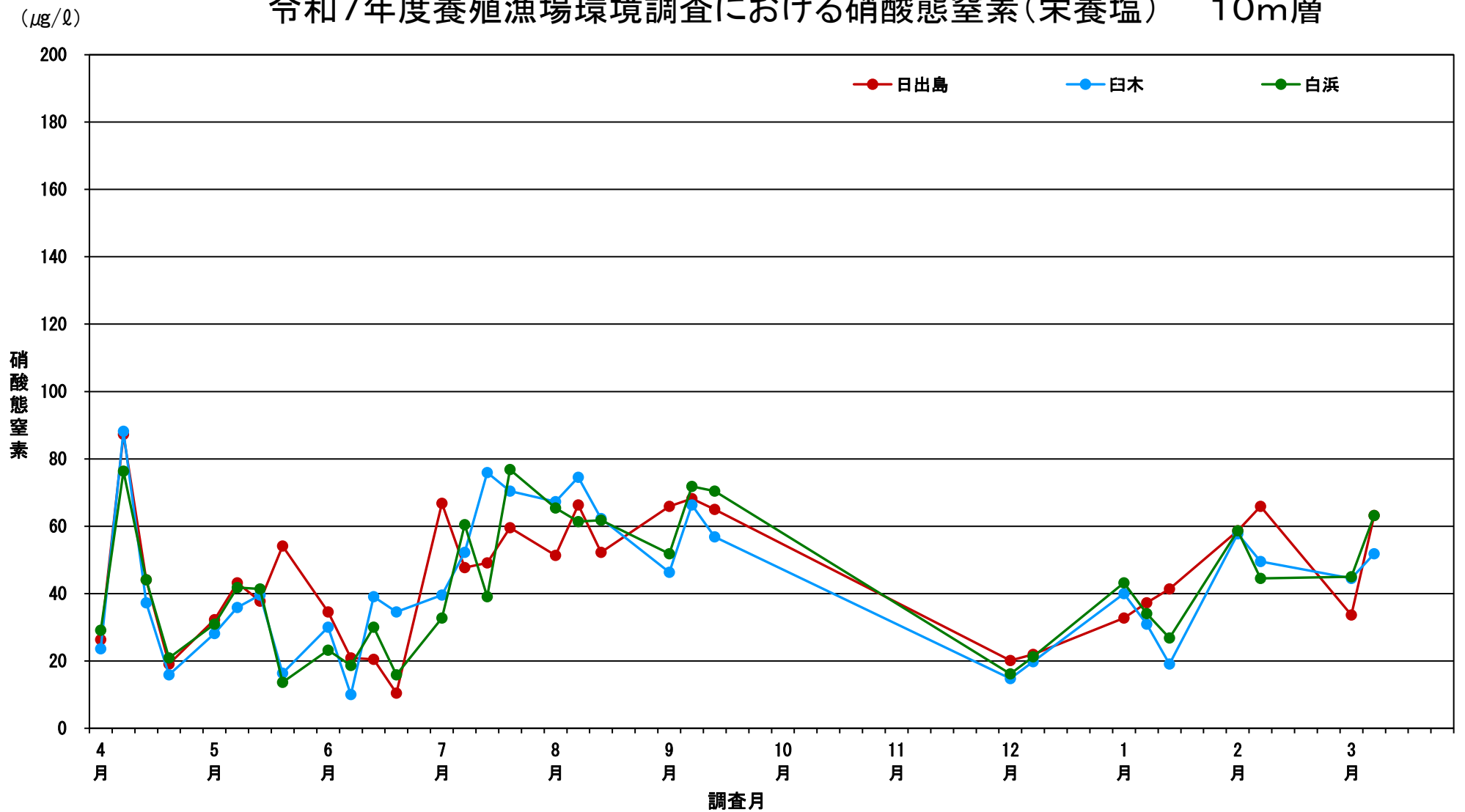
・10 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以下になると芽落ちや色落ちが起こる危険な状態となる。

・20 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以上を一応安全な目安としているが、20～30 $\mu\text{g}/\text{L}$ でも晴天の日が続いたり、小潮時など海水の交換が悪いときは、芽落ちや色落ちが起きることがある。

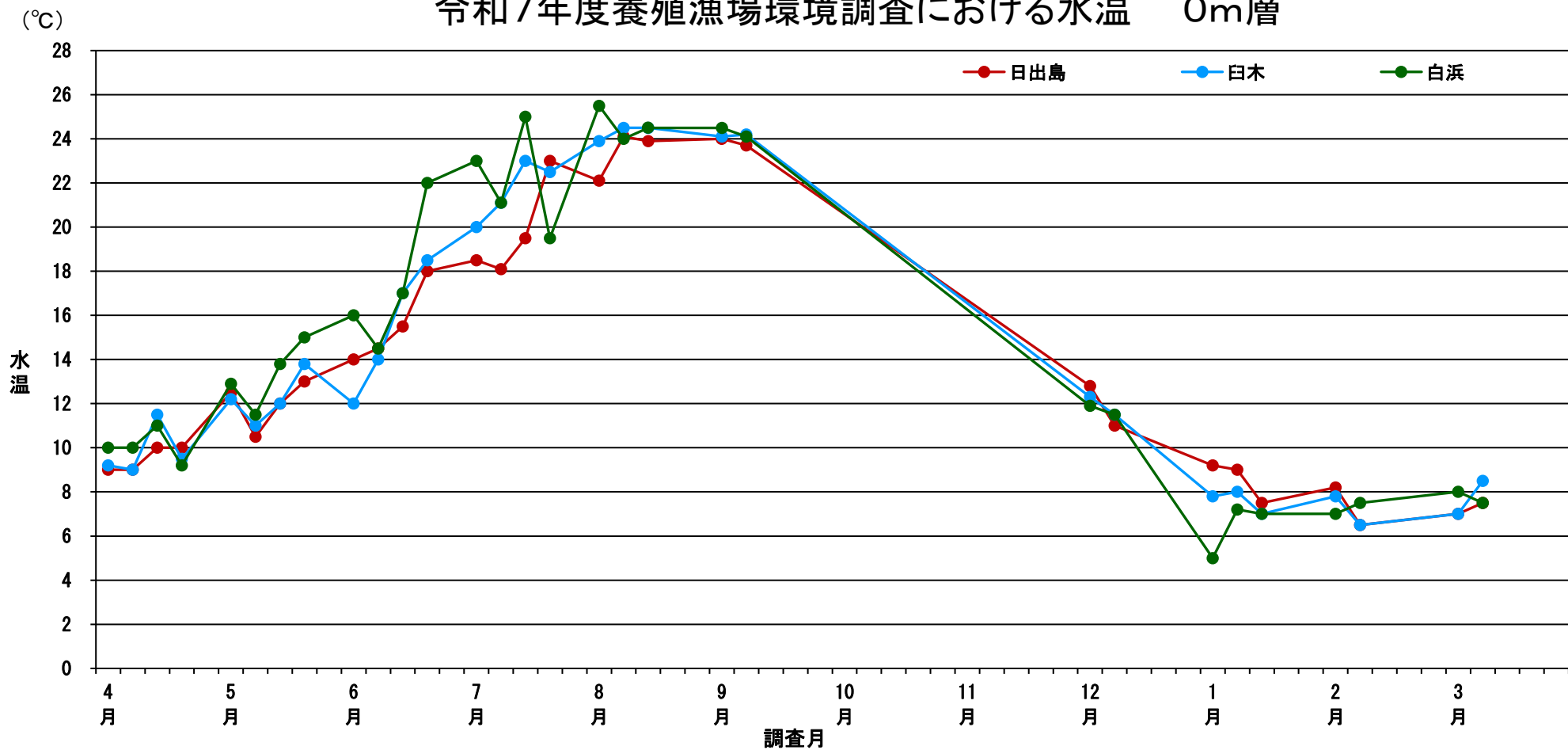
令和7年度養殖漁場環境調査における硝酸態窒素(栄養塩) 0m層



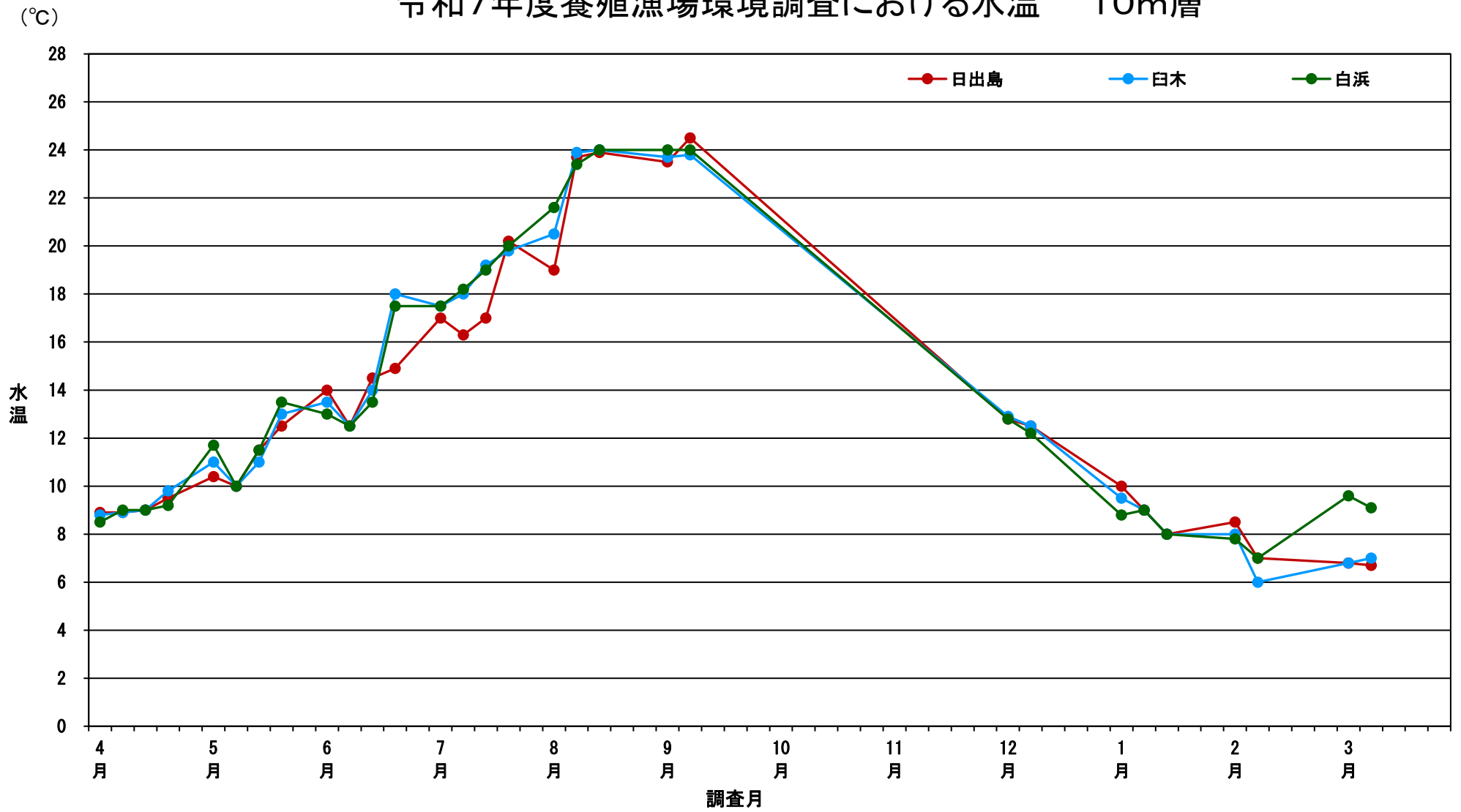
令和7年度養殖漁場環境調査における硝酸態窒素(栄養塩) 10m層



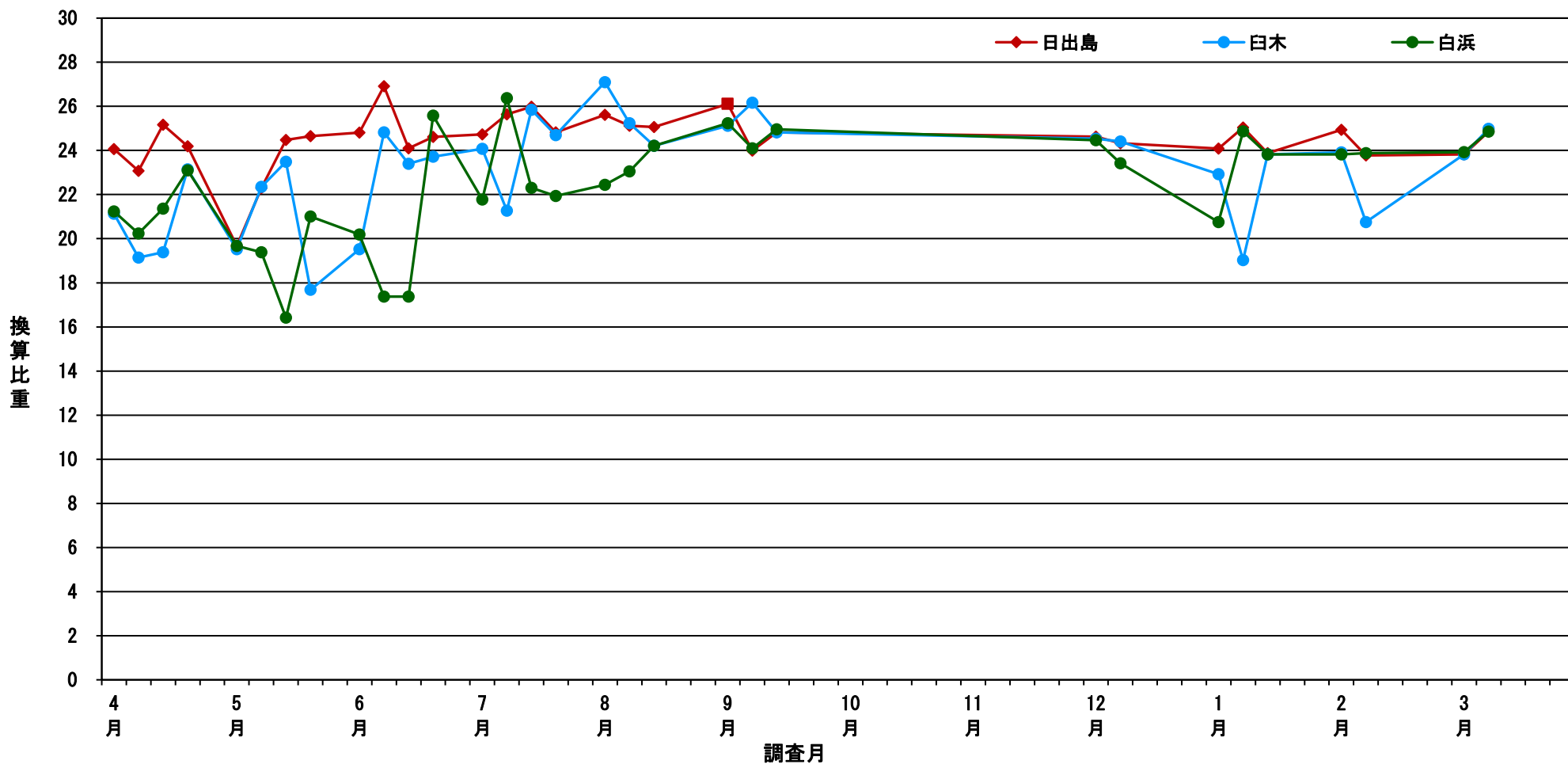
令和7年度養殖漁場環境調査における水温 0m層



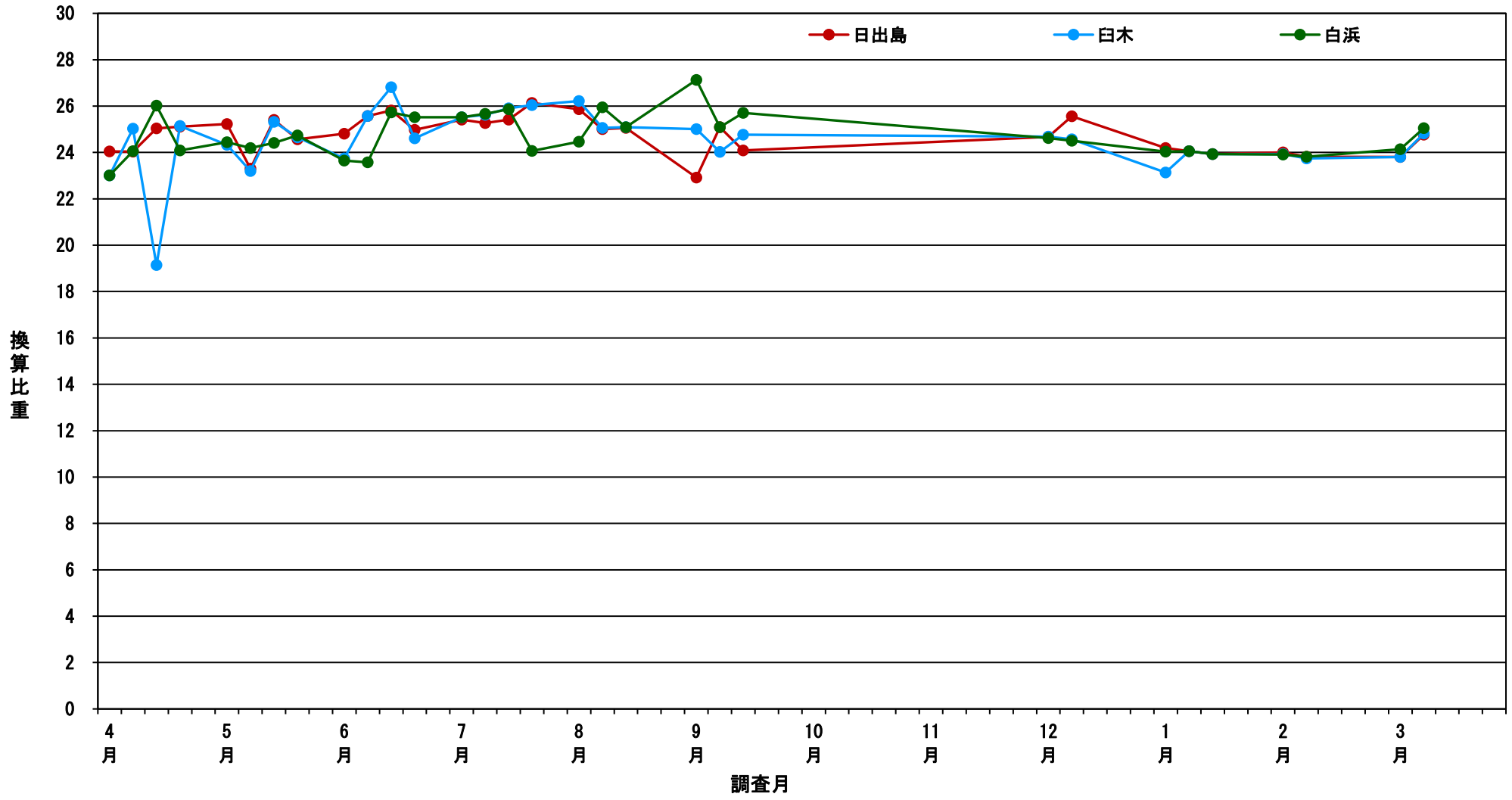
令和7年度養殖漁場環境調査における水温 10m層



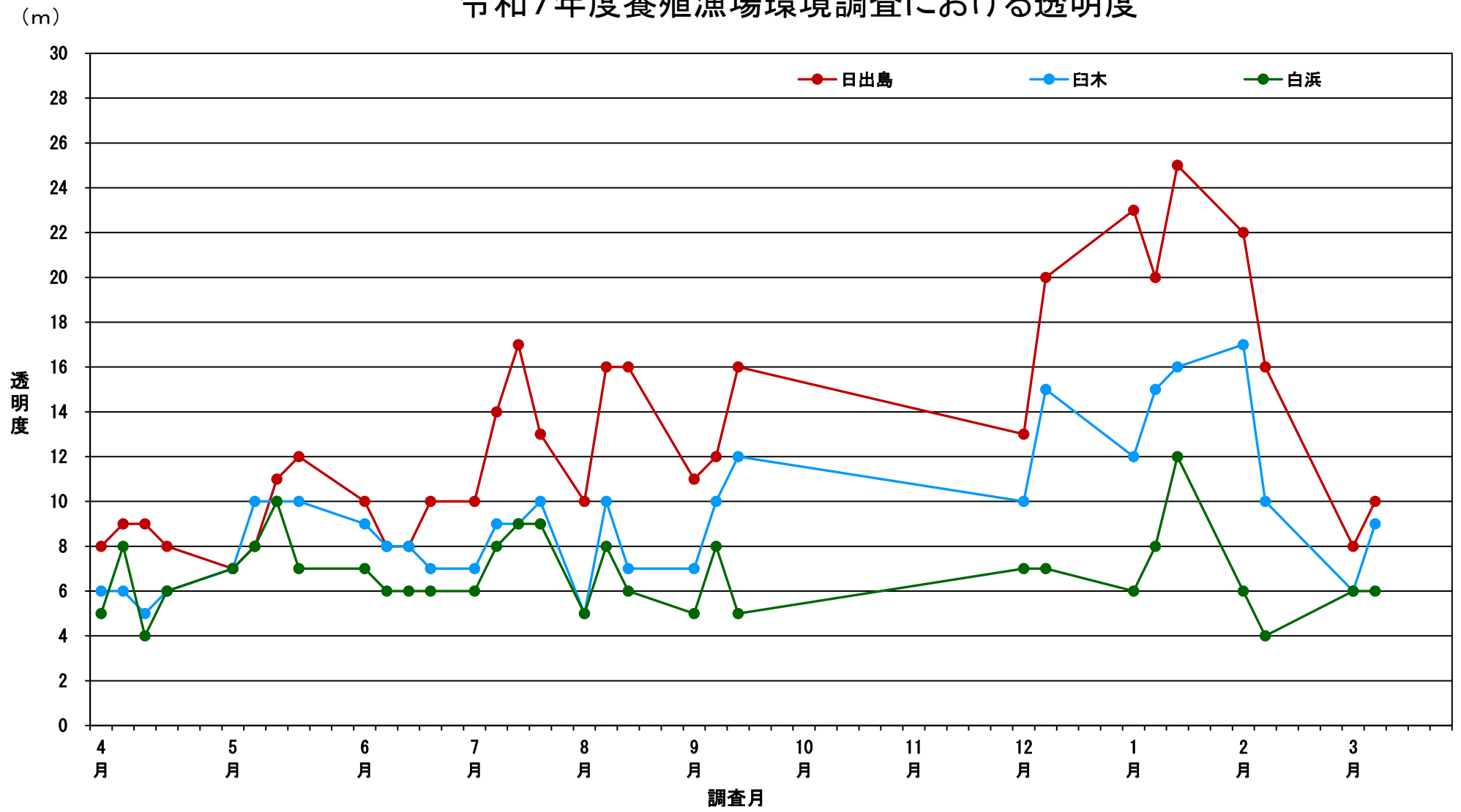
令和7年度養殖漁場環境調査における換算比重 0m層



令和7年度養殖漁場環境調査における換算比重 10m層



令和7年度養殖漁場環境調査における透明度



令和7年度に養殖漁場環境調査における水質・底質調査結果

○調査日:令和7年11月6日

調査漁場	採取日	調査時刻	水深(m)	水質	底質				
				溶存酸素量 (mg/l)	臭気	色	泥質	泥温 (℃)	底棲生物
日出島漁場	11月6日	13:40	32.0	7.50	無	淡茶	小石	15.5	無
臼木漁場	11月6日	13:20	17.0	6.87	無	灰黒	砂泥	15.0	有
白浜漁場	11月6日	14:08	11.0	7.68	無	灰黒	砂泥	15.0	有

※日出島漁場で多毛類等は確認できませんでしたが、海底からは小石等、砂が確認できた事から環境悪化は見られておりません。

○調査日:令和7年11月6日

調査漁場	採取日	調査時刻	水深(m)	水質	底質				
				溶存酸素量 (mg/l)	臭気	色	泥質	泥温 (℃)	底棲生物
長磯前漁場	11月6日	14:00	15.0	7.90	無	灰黒	砂泥	15.0	有

○調査日:令和8年3月23日

調査漁場	採取日	調査時刻	水深(m)	水質	底質				
				溶存酸素量 (mg/l)	臭気	色	泥質	泥温 (℃)	底棲生物
長磯前漁場	3月23日	9:40	16.5	8.56	無	灰黒	砂泥	6.8	有

《参考:養殖漁場改善の目標値》

指 標		指 定 基 準
水質	溶存酸素量(DO)	5.7mg/l(4.0ml/l)を上回っていること
底質	底棲生物	ゴカイ等の多毛類その他これに類する底棲生物が生息していること